

③地下水質の状況

地下水質の調査結果は、表-6.6.1(2)～表-6.6.1(13)に示すとおりである。

ア)水質(イオン)分析

地下水水質分析結果によるヘキサダイアグラムから、図形の形態が類似している地点はB-4、B-8、B-29及びB-31地点であった。逆に、これらの地点とまったく異なった形態を示すのはB-28地点であり、ナトリウムイオンや塩素イオンの含有量が顕著であり、海水の混合した特徴をよく示している。なお、水質分析結果によるトリリニアダイアグラムで示した水質区分では、B-4、B-8、B-29及びB-31地点の地下水は「I. アルカリ土類炭酸塩」に、B-28地点の地下水は「IV. アルカリ非炭酸塩」にそれぞれ水質区分された。

イ)水質一般項目径月結果

平成13年9月～平成14年8月の地下水水質調査結果から、当該調査地点における地下水の水質特性によるレーダーチャートにおいて、海岸線に位置するB-32で、他地点に比べナトリウムイオン(Na^+)とカリウムイオン(K^+)の含量及び塩素イオン(Cl^-)が突出しており、海水の影響を大きく受ける地点であることが示唆された。一方、同様に海岸線に位置するB-23のナトリウムイオン(Na^+)とカリウムイオン(K^+)の含量及び塩素イオン(Cl^-)は、B-32の約7%程度となっており、海水の影響がほとんど無いと推察された。また、B-11、B-21、B-23、B-27のレーダーチャートを比較した場合、B-11、B-21、B-23は比較的似た形状を示し、同じ水脈の地下水であることが推察されるが、B-27はこれら3地点に比べカルシウムイオン(Ca^{2+})が低く、違う水脈の地下水であることが推察された。

ウ)水質健康項目結果(環境基準との比較)

地下水の水質汚濁に係る環境基準で設定された水質調査項目の内、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素($\text{NO}_{3+2}\text{-N}$)を除く測定項目25項目の内では検出されたのはフッ素(F)とホウ素(B)であった。10月はフッ素(F)が0.1～0.3mg/L、ホウ素(B)が0.03～0.05mg/Lの範囲、2月はフッ素(F)が0.1～0.2mg/L、ホウ素(B)が0.03～0.27mg/Lの範囲を示したが、いずれも環境基準値(フッ素0.8mg/L以下、ホウ素1mg/L以下)を下回っていた。硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素($\text{NO}_{3+2}\text{-N}$)については、環境基準値(10mg/L以下)を下回って推移していた。

その他の項目については、10月、2月ともすべて不検出(定量下限値以下)となっていた。